ナスキャリ
NsPace Career

看護師がイメージする訪問看護ステーションとその実態について訪問看護師が徹底解説

訪問看護への転職意向調査レポート

訪問看護ステーションのイメージについてのアンケート調査概要

ナスキャリ NsPace Career

現在転職を検討している看護師を対象にアンケート調査を実施

「訪問看護師として働いてみたい」と考えている方を含めた転職希望者にアンケート調査を実施しました。調査結果から見えてきた看護師の方々が持つ訪問看護師へのイメージやその実態、そして転職の際に役立つ情報を紹介していきます。

調査期間 2024/3/12～2024/3/21

回答者 現在転職を検討している看護師200名

- 訪問看護業界を転職先として検討している：109名
- 訪問看護業界を転職先として検討していない：91名

質問内容

- 訪問看護業界の印象
- 訪問看護業界を転職先として検討している／検討していない理由
- 訪問看護業界転職にあたり重視すること
- 訪問看護業界転職にあたり不安なこと

Aさん
病棟経験4年
訪問看護師歴4年

Bさん
病棟経験7年
訪問看護師歴7年

訪問看護師として経験のある2人からお話を聞きました

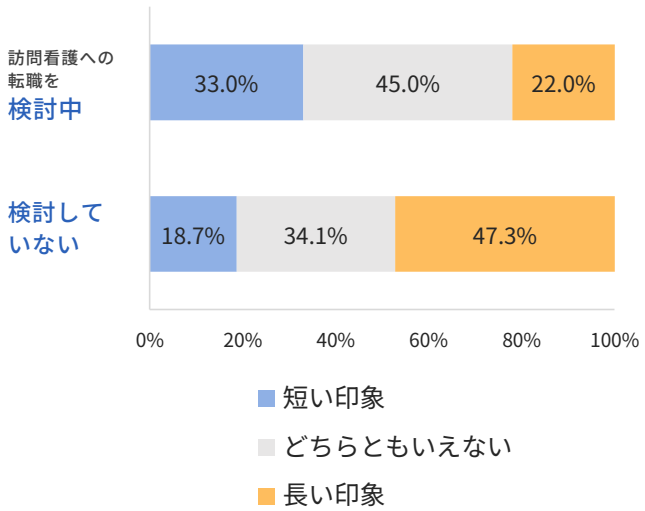
アンケート調査結果を踏まえて、訪問看護師としての経験があるAさん・Bさんからもお話を聞きました。それぞれ病棟看護師としての経験もあり、働き方を比較して見えてきたものや訪問看護師のイメージと実態、そして働くにあたっての心構えなどを詳細に語ってくれています。このレポートでは、2人の言葉や考え方も紹介しています。「訪問看護師として働きたい」と今すぐに転職を考えている方だけではなく、「病棟勤務と訪問看護師の違いについて興味がある」という方にとっても有益な情報が得られます。

© HSCO All rights reserved.

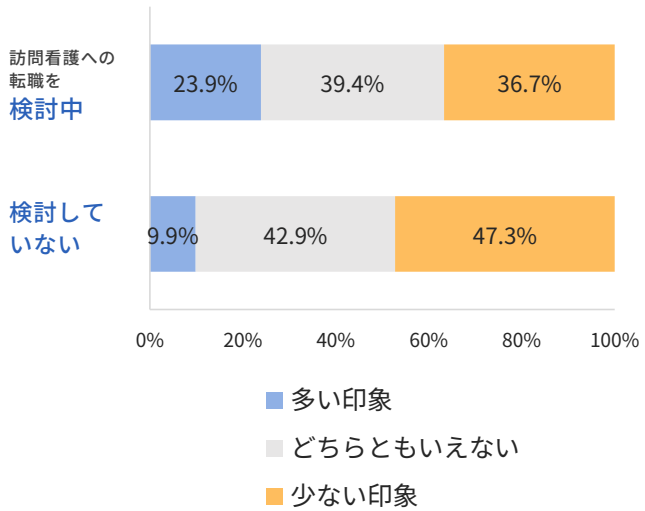
訪問看護ステーションの労働環境は？ アンケート調査結果

ナスキャリ NsPace Career

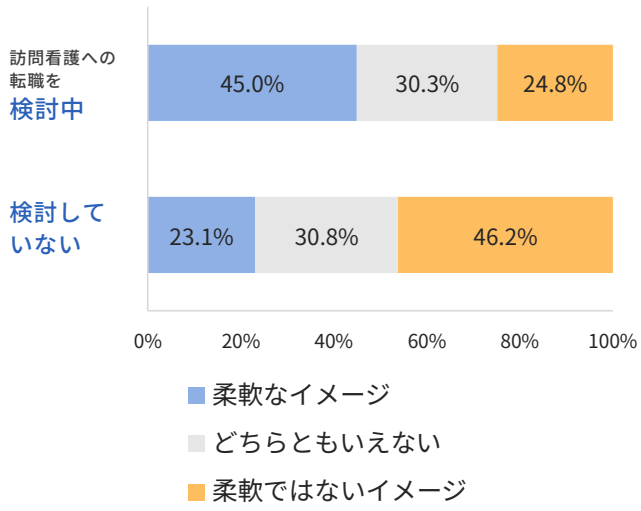
労働時間



休日の多さ



働き方の柔軟性



働きたいと考える人とそうでない人では、訪問看護ステーションへのイメージが異なる！

「労働時間が長いイメージ」と答えたのは、訪問看護ステーションを転職先として考えている人（以下、候補グループ）では22.0%、転職先として候補に入れていない人（以下、候補外グループ）では47.3%と2倍以上の開きがありました。また「休日が多い印象」と考えている人について、候補グループでは23.9%だったのに対して、候補外グループでは9.9%となり、「働き方の柔軟性ができる印象がある」と答えた人は候補グループで45.0%だった一方、候補外グループでは23.1%にとどまりました。

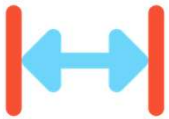
このように差が出ているのは、訪問看護ステーションへの理解度が異なることが理由だと考えられます。訪問看護ステーションへの転職を希望する方は、さまざまな事業所について情報収集しているため、相対的に訪問看護師がワークライフバランスが実現しやすい職種であるという気づきがあるようです。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護師のワークライフバランスの実態 訪問看護師が解説

ナスキャリ NsPace Career

施設によって労働環境の振れ幅が大きい



基本的に土日休みが多い

夜勤がない

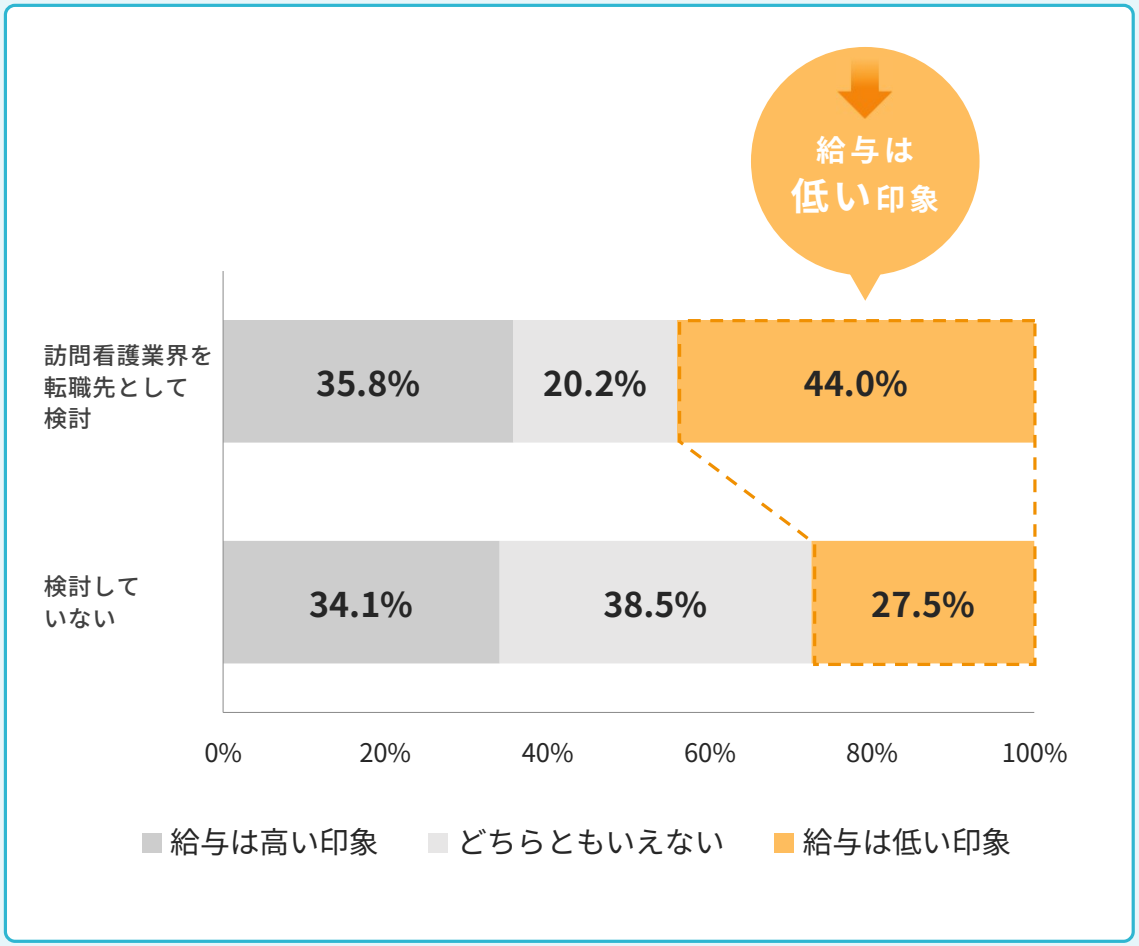
WLBの実現については施設によって労働環境が大きく異なるのが実態です。Aさん・Bさんからは「バリバリと仕事する事業所だと、医師に付き添って長時間働くこともある」という声もある一方「重症度が低く、リハビリメインの施設はメンバーが時間内に帰宅できるように調整している」といった声が聞かれました。
別の視点からみると、「訪問看護ステーションの立ち上げに携わっていた時期は人員も限られ忙しかったが、メンバーがそろうにつれて働きやすくなった」というようなケースもあります。チームの人数が多い、また人材が確保できている職場はその分休日取得が調整しやすくなり、負担が少なくなる傾向にあるという見方もできます。

ご自身ライフスタイルの変化にも合わせられるのが魅力

病棟勤務と大きく異なる点は、基本的に土日休みが多いこと、そして夜勤がないことです。休日や夜間に業務が入らないことで、「育児や介護と並行して働く必要がでてきた」というご自身のライフスタイルの変化に合わせて柔軟な働き方を選択できるでしょう。事業所によっては、夜間にオンコールがあっても出勤しなくてよいところもあります。
訪問看護師には、ワークライフバランスが実現しやすい条件がいくつも存在していますが、ネガティブなイメージを持たれてしまいがちなのは「身近に訪問看護師がいないから」だと考えられます。実際に働く人の声を聞く機会が少なく「仕事がきついのでは？」「休みが取れないのでは？」といったイメージが先行してしまっているようです。ただ、訪問看護ステーションはそれぞれ特色や労働環境が異なるため、ご自身の目指すライフスタイルに合った働き方ができるところを探してみるのがよいでしょう。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護業界の給与の印象は？ アンケート調査結果



夜勤がないことで、給与が下がる可能性がある

訪問看護業界の給与イメージについて、「高い印象がある」と答えたのは候補グループが35.8%、候補外グループが34.1%とほとんど差がありませんでした。一方、「給与が低い印象がある」としているのは候補グループで44.0%、候補外グループで27.5%とやや差が出ています。訪問看護師への転職を考えている人は情報収集していくうちに「夜勤がない」ことなど知り、その分給与が低くなるだろうと捉えているようです。

実際、日勤となることで夜勤手当がなくなったり、賞与に影響が出てきたりするため、転職先によってはこれまでと比較して給与が下がってしまう可能性があります。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護業界の給与は? 病棟看護師との比較

訪問看護師が解説

ナスキャリ NsPace Career

平均税込給与総額※

※基本給に手当を加えたもの

病院	訪問看護ステーション
386,046円	367,775円

出典： 2021年看護職員実態調査

働く地域や運営母体によって給与アップとなることも

ここで病棟看護師と訪問看護師の給与について比較してみましょう。日本看護協会が公開している「2021年看護職員実態調査」によると、病院にて就労している看護師の平均月収は38万6,046円となっています。一方、訪問看護師の平均月収は36万7,775万円という結果が出ています。この数字についてAさんは「病棟の規模や夜勤や年末年始手当、そして年功序列など取り巻く条件の違いはありますが、やはり夜勤の有無によって差が出ている」とみています。一般的に考えると、訪問看護ステーションで働くとオンコール手当がつくものの、夜勤手当が出ないため相対的に給与が下がる傾向にあるようです。

ただ、訪問看護師の方が給与は低いと一概に言えるわけではありません。Bさんは「国立病院で勤務した後に、首都圏にある訪問看護ステーションに転職したら給与が上がりました。病院附属の訪問看護ステーションで母体がしっかりとしていることも理由だと考えられます」と分析しています。働く地域や施設の運営母体の違いによっても給与に差が出てくるため、求人情報においてはこれらの情報にも着目しておく必要があります。

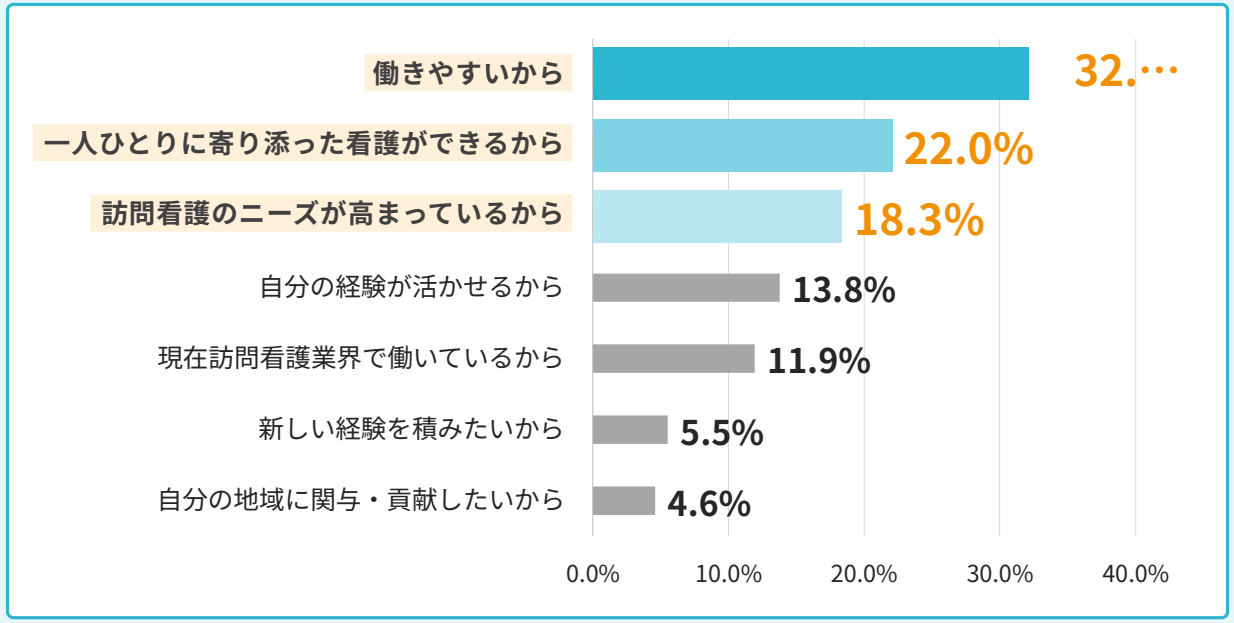
ただ、平均よりも給与がかなり高いケースなどは注意が必要です。Aさん・Bさんからは「給与が高い分、訪問看護ステーション全体で担当している件数が多かったり、勤務時間が長くなったりすることが考えられる」との声がありました。転職の際、先に紹介したワークライフバランスの実現を第一に考えるのか、はたまたできるだけ働いて給与アップを目指すのかなど、ご自身の働き方と給与のバランスについてきちんと整理しておいた方がよいでしょう。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護業界への主な転職理由は働きやすさ

アンケート調査結果

ライフスタイルの変化に対応できるのが、訪問看護師という働き方



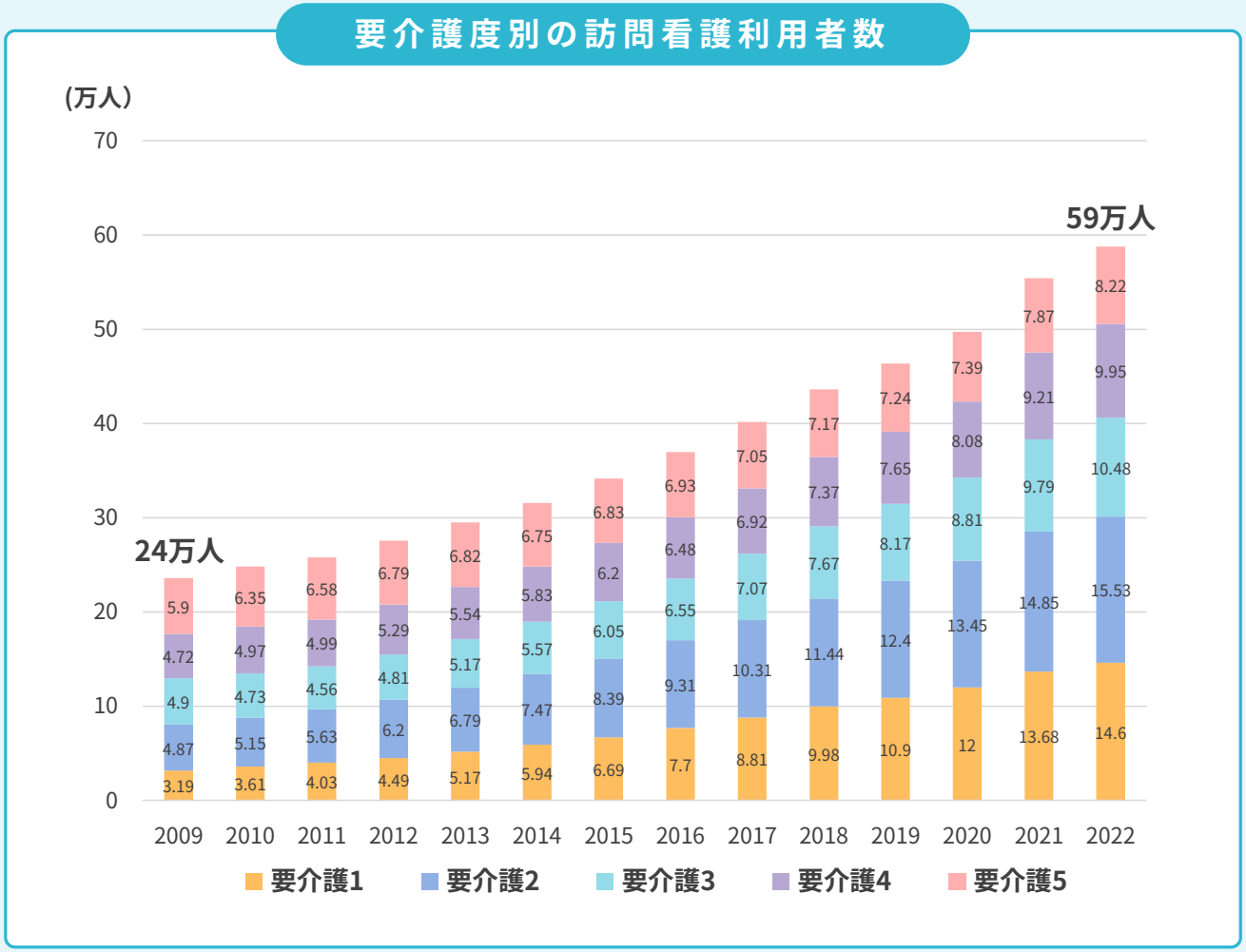
アンケート調査では「なぜ訪問看護業界を志すのか？」についてもお聞きしました。その結果「働きやすさ」を理由に転職を希望する割合が全体の32.1%を占めることが分かりました。特に、回答者の中で30代が最も働きやすさを重視していることが明確になっており、ライフスタイルの変化が転職に大きな影響を与えていることがうかがえます。

このほか、転職を考える理由として「一人ひとりに寄り添った看護ができるから（22.0%）」や「自分の経験が活かせるから（13.8%）」といった意見がありました。病棟看護師から転職する理由については、「『自分らしい生活』の実現に向けて転職を決意した」といったコメントもあり、経験や知識を活かしつつもワークライフバランスを見直したいという考えが強いようです。加えて、「訪問看護のニーズが高まっているから（18.3%）」を理由にキャリアチェンジを検討するケースがあることもみえてきました。高齢化が進む日本において訪問看護師の需要が高まっているのは事実であり、時代の潮流を踏まえてこれからの働き方を模索していると考えられます。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護業界のニーズの高まり

訪問看護師が解説



出典：介護給付費等実態統計（各年４月審査分）

訪問看護師は将来性の高い仕事のひとつ

さまざまな観点からみても、訪問看護業界は今後も需要が伸びていくことが分かります。まず、超高齢化社会の日本では要支援者・要介護者ともに訪問看護を利用する方の割合が年々増加しています。厚生労働省「介護給付費等実態統計」に基づく「要介護者における訪問看護利用者数の推移」によると、要介護1～5を合計した利用者数が平成21年は約23万5,000人だったのに対して、令和4年には約58万7,000人と2.5倍も増えているのが分かります。

これに伴い、全国訪問看護協会調査によると、訪問看護ステーションの数は2013年に6,801事業所だったのが、2018年に1万418事業所、そして2023年には1万5,697事業所となり右肩上がりで増えています。厚生労働省の「令和4年介護サービス施設・事業所調査の概況」によると、現在、訪問看護ステーションで働く看護師は約11万人です。日本看護協会では2025年までにこれを15万人まで増やすことを目標としています。このようなデータから、訪問看護師が将来にわたって活躍できる仕事であることが理解できます。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護業界における利用者さまとの向き合い方

訪問看護師が解説

- ☐ 決まった訪問時間の中で工夫することが必要
- ☐ ご自宅にうかがうので距離が近くなる

利用者さまとの距離感を大切に

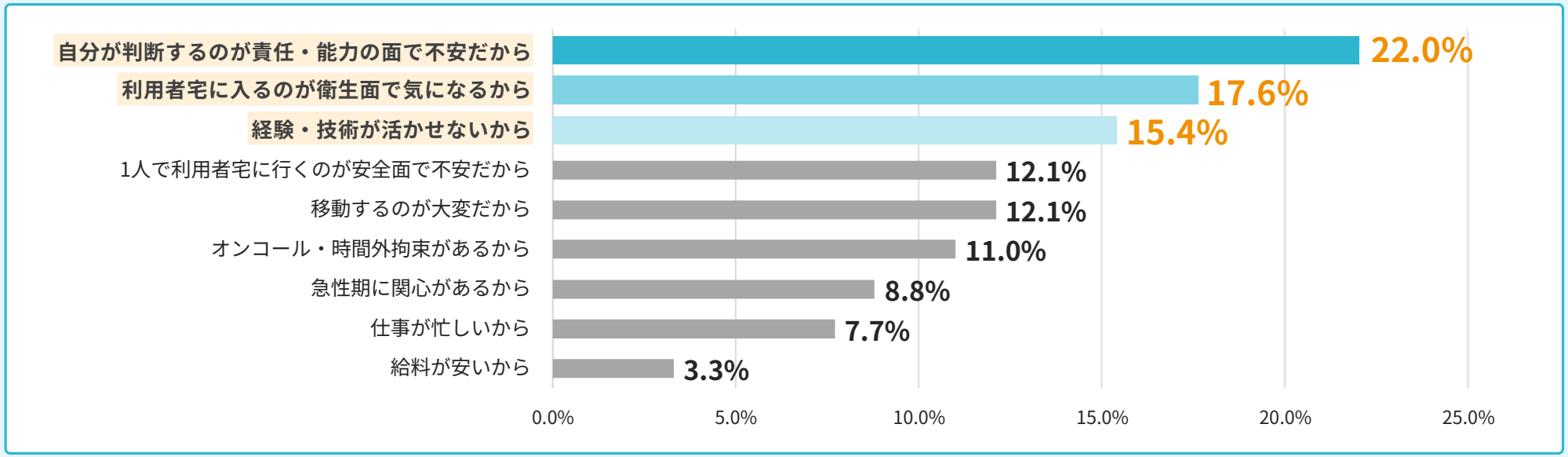
「利用者さまと向き合える時間が長い」ことから、訪問看護師へと転職を決意する方もいます。利用者さまとの向き合い方について、病院勤務と訪問看護ではどのような点が違うのでしょうか？ここでは経験者であるAさん・Bさんの言葉を紹介します。

1つ目は、利用者さまと会う時間が限られていることです。病棟のように、ナースコールがあれば駆けつけるといった状況ではないため、訪問時に必要な看護を進めていく必要があります。Aさんは「一人ひとりに寄り添いつつも、決められた時間の中で工夫して看護することを心がけている」と話しています。

そして2つ目は、ご自宅を訪問するので人と人として距離が近くなるものの、あくまで「看護師としての業務を遂行すること」を意識しておかなければならないことです。例えば、犬の散歩や皿洗いをお願いされることもあるかもしれません。しかし、医療処置やリハビリの対象外であるためしっかりと断る必要があります。Bさんは「ご自身の価値観を主軸に利用者さまの依頼を聞いてしまうと、結局、訪問看護を行うチーム全体が困ることとなります。訪問看護師として、超えてはならないラインというのをきちんと理解しておく必要があると思います」と語ってくれました。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護ステーションへの転職を希望しない主な理由は? アンケート調査結果



自身で判断するイメージにより、訪問看護に消極的に

訪問看護業界への転職に後ろ向きな理由についても調査したところ、22.0%と最も多い回答だったのが「自分が判断するのが責任・能力の面で不安だから」でした。一人で訪問して看護することに対して責任が重いと感じる人が多いようです。ただAさん・Bさんからは「たしかに不安はあったが、先輩にいつでも連絡できるフォロー体制があり、さらに利用者さまや訪問看護・介護に携わる地域の方々などがサポートしてくれました。皆さんが新人の私を育て上げてくれた気がします」という意見が挙がりました。

次点に、「利用者宅に入るのが衛生面で気になるから（17.6%）」「経験・技術が活かせないから（15.1%）」が続きます。また、同率12.1%で「1人で利用者宅に行くのが安全面で不安だから」「移動するのが大変だから」といった意見もみられました。衛生面の工夫や安全対策については後のページで紹介しますので、疑問点をクリアにするためにもご一読ください。さらに事業所によっては、自転車だけではなく自動車移動が許可されているところもあります。ご自身に合う訪問看護ステーションを見つけることで、ネガティブに感じる部分がクリアになる可能性が高いと言えるでしょう。

© HSCO All rights reserved.

1人だけで判断し責任を負うイメージは誤り

訪問看護師が解説

ナスキャリ NsPace Career

様々なバックグラウンドを持つ チームメンバーで利用者さまを支える

訪問看護と聞いて「1人の看護師にその責任がのしかかってくるのかもしれない」と捉えられている傾向があるようです。訪問看護ステーションによって差はあるものの、急性期病棟などとは異なり、重症の方が多くないのが特徴です。それゆえに、病状が急変するといったことはあまり起こらないと考えてもよいでしょう。万が一、何かあってもすぐに医師や他のスタッフ等と連絡を取れる体制を敷いているところがほとんどであるため、訪問看護師だからと全ての判断をご自身でしなければならないといった状況にはなりにくいです。

その連絡体制にもつながる点ですが、基本的に訪問看護ステーションで働く別の人の知見や経験も借りながらチームで対応していくものです。経験者のBさん自身は「あらゆる手段を使って先輩に相談しながら、自らが看護していく経験を通して本当に鍛えられた」と感じているそうです。

どうしても一人で担当するのが不安な場合は、チーム制を取り入れている訪問看護ステーションを選択することをおすすめします。チーム制とは1人の利用者さまに対して、数人の看護師が訪問看護する仕組みです。看護の方向性などを相談しながら進められるメリットがあります。

- ☐ 重症な方は多くない
- ☐ 同僚の知見も借りながら対応
- ☐ チーム制のステーションもある

© HSCO All rights reserved.

利用者さま宅でケアをする際: 衛生面の工夫

訪問看護師が解説

ナスキャリ NsPace Career

利用者さまの気持ちを汲みながら衛生対策を実施

訪問看護で使用するエプロンは訪問看護ステーションが準備することが多く、手袋についてはステーションか利用者さまに準備してもらうケースが多いようです。ある看護師は「エプロン・手袋をしないでほしいと言われた経験はない」といいます。非常に稀なケースでは「なんだか、ばい菌扱いみたい」「手袋を使うなんて、俺が不潔だというのか」と言われることもあるようですが、防護の必要性をきちんと説明して、理解してもらうようにしています。

そのほか、手洗いの重要性は利用者さまも十分に理解されており、洗面台の貸し出しについては拒むケースはほぼないようです。入浴介助時は、素手・素足で行うことが多いですが、入浴ケア後に自身の手や足を洗わせてもらい、持参したタオルで拭くことができます。気になる方は入浴ブーツを使うこともできます。

例えば「利用者さまが結核であるにもかかわらず、マスクをしてくれない」といった衛生対策が施せない事態では、医師やケアマネージャーも含めて「このままでは訪問できない」ということを説明します。看護師一人で説得したり、我慢したりする必要はありません。衛生対策についてもチームで状況を把握して、安全が確保できるように努めている事業所がほとんどです。

衛生面で問題がある稀なケース

- ご自宅の衛生環境が良くない
- 「手袋やエプロンは感染症の人向け」と誤解されている

解決法

- ☐ **1日の最後の訪問にして他の利用者への感染を防ぐ**
- ☐ **手袋・エプロンなしでもできる対応のみとさせていただく**（おむつ交換はしないで、バイタルだけ見ていく）。**後で、医師やケアマネへ相談して対応**
- ☐ **説得する。**（例：Ns「〇さんは、素手でおしりを触った手で家じゅうのものを触るのは嫌ではありませんか？」）**そのうえで、最低限、手袋だけでも防護策を取らせていただく**

© HSCO All rights reserved.

１人での訪問看護、 事業所の安全対策は? 訪問看護師が解説

ナスキャリ NsPace Career

1

困ったときはすぐに電話をし、
チームがフォロー

2

新人には同行することも

不安と疑問は抱え込まずに相談できる体制であることが、安全につながっている

訪問するのは1人ですが、それを支えてくれるメンバーがいるのが訪問看護ステーションの強みです。Bさんは訪問看護師としてスタートした頃、先輩に電話しても何を伝えて、尋ねればよいか分からなくなってしまった経験があるそうです。その際、先輩が「あれはチェックした？あの様子はどう？」と聞いてくれたことで、利用者さまの診るべきポイントが浮かび上がってきたといいます。そして「それなら、ステーションに戻ってから医師の先生に連絡すれば問題ないよ」「その状況なら、医師に相談した方がよいね」などアドバイスをもらうことで、さまざまな状況への対応力が徐々に培われていきました。

加えて、看護師だけではなく利用者さまが不安にならないためにも、新人看護師と一緒に先輩が同行するケースもあります。はじめに慣れない訪問看護に不安を感じるのは珍しいことではありません。ただ常に不安が付きまとうわけではなく、経験を積むに連れてさまざまな場面に対応できるようようになるはずです。転職の際に、新人に対してどのようなフォロー体制があるのかについて、事前に聞いておくのもおすすめです。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護業界への転職理由、具体的なコメント

アンケート調査結果

ナスキャリ NsPace Career

働きやすさとやりがいを得られることが決め手に

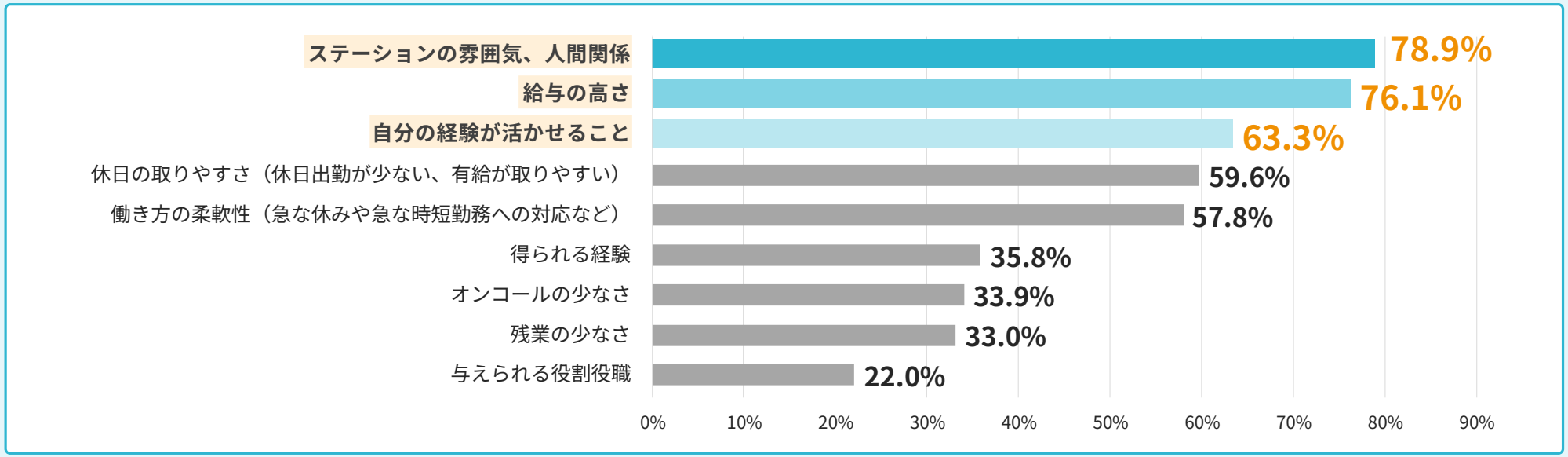
ここでは、アンケート調査で分かった訪問看護師へと転職を決めた理由について紹介します。
働く時間帯が決まっているーーーという働き方や、
一人ひとりへ看護を提供できるーーーといったやりがいに関する回答が多く集まりました。

訪問看護師へと転職を決めた理由

- 定期的な夜勤がないため。
- 夜勤が少ない、もしくはないと聞いていたから。
- ナースコールの連打がないのがよい。
- 小規模な所で働きたいと思ったから。
- 利用者さまのご自宅へ向かう移動時間にリフレッシュできそうだから。
- 利用者さまが生活する環境下で、利用者さまやご家族の望む看護を提供していく仕事に魅力を感じている。
- 勤務時間が日中であるため。
- 基本的に自分で考え、行動できることでライフスタイルと合わせて時間がコントロールしやすいから。
- 訪問看護師なら、利用者さまとしっかりと向き合えるから。
- 利用者さまの個別性に合わせた看護を提供できるから。
- 利用者さまとゆっくりと関わることができるから。
- 一人当たりの看護する時間が長いから。病棟では慌ただしく時間が過ぎていくので、
お話を聞く時間が取りづらかった。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護ステーション選びで重視するポイントは？ アンケート調査結果



人間関係のよい職場で、経験が活かせることを重要視

アンケート調査では、訪問看護ステーションを選ぶ上で重視している点についてもお聞きしました。その結果「ステーションの雰囲気、人間関係（78.9%）」と最も多くなりました。訪問看護ステーションは小規模な事業所が多いのが特徴です。少数精鋭のメンバーで長時間ともに過ごし、チームワークを大切にしながら業務を進めていかなければならないため、人間関係について意識する割合が高いと考えられます。

次点に、「給与の高さ（76.1%）」「自分の経験が活かせること（63.3%）」が続きます。特に、転職先として訪問看護を候補に入れる理由についても「自分の経験を活かしたい」というコメントが数多くありました。訪問看護師は基本的に、看護師1人が利用者さまと向き合うかたちになります。したがって、ご自身が提供するケアの中でこれまでの経験を活かせることが、直接利用者さまのQOL（Quality of Life：生活・人生の質）の維持・向上につながると感じているようです。加えて、半数以上が「休日の取りやすさ（休日出勤が少ない、有給休暇が取りやすい）」についても重視していることが分かりました。やはり、訪問看護師はワークライフバランスが実現できると期待している人が多いことがうかがえます。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護ステーションの雰囲気を事前に理解するには？ 訪問看護師が解説

ナスキャリ NsPace Career

見学で確認するべき点

- ☐ 職場の雰囲気
- ☐ 1日の訪問件数
- ☐ 利用者さまの特徴
- ☐ 移動手段
- ☐ オンコール体制
- ☐ 使用する機器、持ち物

転職する訪問看護ステーションを決める際には、事前に見学を

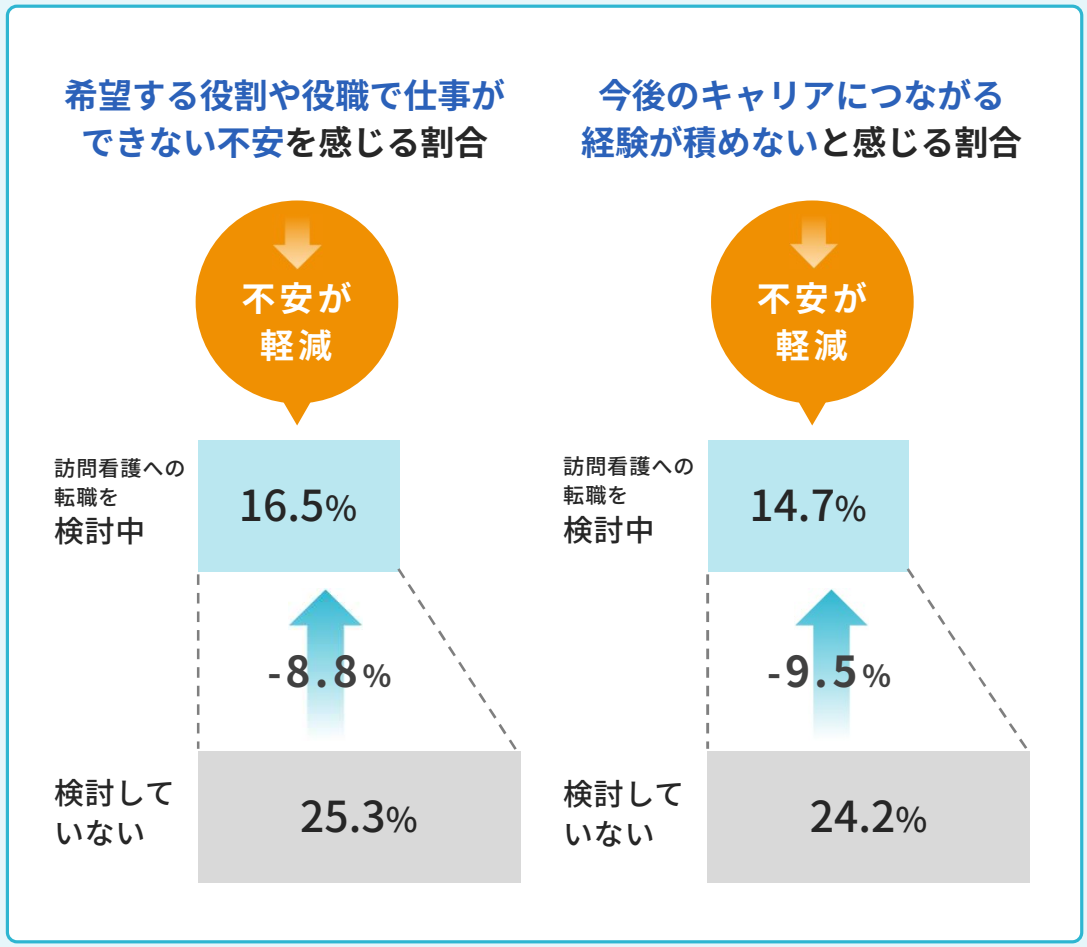
「自分に合う職場なのか知りたい」や「訪問看護ステーションは初めてなので、働く姿がイメージしにくい」といった不安や悩みを払拭するためにも、転職を決める前に事業所を見学することをおすすめします。見学することで職場の情報や雰囲気、人間関係を肌で感じることができ、実際に働く看護師の意見などを聞くことができます。

訪問看護ステーションを見学した時には、まず「1日の訪問件数」を聞いてみましょう。尋ねることで、その事業所の忙しさや休暇の取りやすさが垣間見えます。また「利用者さまの特徴」や「移動手段」、そして「必要なスキル」を確認しておきましょう。知っておくことで働き始めてから「看護できる得意分野が異なる」「自転車移動は体力が続かない」といったミスマッチを防ぐことができます。さらに訪問看護に同行できる場合には、利用者さまや現役看護師の雰囲気をはじめ、採用している看護や医療処置の方法、機器や持ち物などを目で見て確かめることができます。「ここで訪問看護師として活躍したい」と前向きな気持ちでスタートするためにも、一度見学させてもらえるように依頼してみてください。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護業界への転職時の不安

アンケート調査結果



キャリアや業務の役割が不安要素に

新たに訪問看護業界へ足を踏み入れる際に、不安に感じる点についても調べました。その結果、候補グループの16.5%、候補外グループの25.3%が「希望する役割や役職で仕事ができない可能性」を挙げました。また、候補グループの14.7%、候補外グループの24.2%が「今後のキャリアにつながる経験が積めない可能性」と感じているようです。

いずれも訪問看護ステーションを転職先として考えていない人の割合が高くなっています。これにより、訪問看護の仕事は今後のキャリアにはつながらない、また望む仕事ができる可能性が低いというイメージを持っていることで、結果として訪問看護ステーションを敬遠していることが分かります。

一方、転職を希望する人にとっては、いずれも不安に感じる割合が2割以下となっています。理由としては、さまざまな訪問看護ステーションの求人情報やキャリアマップについて触れる機会があり、訪問看護師の将来性やキャリアをどのように築いていけるのかについてある程度のビジョンが見えているためと考えられます。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護業界で得られる経験

訪問看護師が解説

- ☐ 興味のある分野について落ち着いて学べる
- ☐ 認定看護師や専門看護師を目指せる
- ☐ ステーションの管理者や主任を目指せる

スキルアップ・キャリアアップは自分次第！

訪問看護師のキャリアについて、どのように考えているのかをAさん・Bさんにお聞きしました。実際に業務に従事しているからこそ見えてくるビジョンもあります。Aさんは、「訪問看護は、特定の疾患や領域を落ち着いて学んでいくことができるので、キャリアアップにつながる」と話しています。病院の師長になるといったキャリアとは違いますが、「訪問看護ステーションの管理者や主任になる」「学びたい分野について知見を深めて、認定看護師や専門看護師を目指す」、そして「自らで訪問看護ステーションを立ち上げる」といったビジョンがあるといいます。

また、Bさんからは「個々人が、訪問看護の現場で何かを身につけたいという前向きな姿勢があれば、十分にキャリアが積める」といった意見が聞かれました。加えて「専門性のある病棟の方が、専門領域を活かせると考えるかもしれません。しかし訪問看護においても専門性を土壌に、知識や応用力をどんどんと広げていくことができる」といいます。訪問看護ステーションへの転職を希望する際は、自分が思い描くキャリアや目標について見つめ直し「それに一歩近づける訪問看護ステーションなのか」といった視点でも探してみるとよいかもしれません。

© HSCO All rights reserved.

訪問看護への転職なら 業界特化の転職サイトがおすすめ

ナスキャリ
NsPace Career

訪問看護に
特化した豊富な
求人情報

無料相談、キャリア
カウンセリングが可能

訪問看護
ステーションへの
事前見学が可能※

※一部の施設では実施していない場合もあります

ナスキャリ（NsPace Career）で、あなたに合った訪問看護ステーションが見つかります

訪問看護師として活躍したいと考えている方には、訪問看護特化の求人サイト「ナスキャリ（NsPace Career）」がおすすめです。訪問看護業界ならではの求人・事業所の特徴がわかる情報を豊富に掲載しており、訪問看護業界ならではの条件で事業所を検索することが可能です。例えば、残業時間の目安、土日祝日の勤務の有無、オンコール体制などの詳細な情報も掲載しています。

また、訪問看護業界の未経験者や訪問看護ステーションの選択に悩まれている方向けに、訪問看護に特化したキャリアアドバイザーによる転職無料相談や人材紹介サービスも行っており、訪問看護への転職を一人ひとりの希望に沿って進めるための様々な情報・サポートを提供しております。
さらに、職場の雰囲気を理解したうえで安心して転職いただくために、気になる訪問看護ステーションへの見学申込も可能です。

「ナスキャリ（NsPace Career）」であなたにぴったりの訪問看護ステーションを見つけて、訪問看護に踏み出してみましょう。
まずはお気軽にご相談ください！

© HSCO All rights reserved.

訪問看護専門の総合転職支援サイト

ナスキャリ

NsPace Career

＼　訪問看護業界への転職はお任せください　／

https://ns-pace-career.com/

お問い合わせ